

5年生社会科

「自然災害の防止」  
指導計画（案）

## 小単元「自然災害の防止」

### 1. 本小単元の概要

(5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、学習の問題を追及・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。

(エ) 地図帳や各種の資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身につけること。

(ア) 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。

出典：小学校学習指導要領 平成 29 年 3 月 文部科学省

我が国の国土では様々な自然災害が起こりやすく、自然災害の発生は、私たちの生命や生活、産業に大きな影響を与える。その被害を防止するために、国や徳島県や石井町などが様々な対策や事業を進めていることなどを、石井町を流れる吉野川などの水害を題材に調べ、私たちの生命や生活、産業との関わりについて考える。また、自然災害が起こりやすい我が国では国民一人ひとりが防災意識を高める必要があることに気付くようにする。

【捉えさせる内容とねらい】

①我が国の国土では様々な自然災害が起こりやすいこと

■日本の自然災害の概要（全体像）をつかませる。（地震、津波、水害、土砂災害、雪害など）

②吉野川では過去にどのような水害が発生し、どのような水害対策が行われたのかを知ること

■身近な河川の水害や水害対策の歴史を捉えさせる。（河川の変遷、水害対策の歴史など）

③自然災害の被害を軽減させるため国や徳島県、石井町などが様々な対策を行っていること

■公的機関が国土の保全に努めていることや災害時の対応を捉えさせる。（治水対策、避難誘導、救助活動、復旧活動など）

④国民一人ひとりが防災意識を高めること⇒水害から様々な災害への展開

■防災の観点からよりよい国民生活の実現を目指す態度を育む。

（自然災害の防止（平常時・災害発生時）の国や徳島県、石井町等の対策や事業のふり返り）

（水害に加えて、私たちが様々な自然災害に備えてできること）

## 2.本小単元の目標

日本では、国土の自然の特色と関わって様々な自然災害が起こることを理解するとともに、災害から暮らしを守るために行われている様々な取り組みについて調べ、自分たちにできることは何かを考えさせる。

## 3.本小単元の構成

【第1時】  
日本の自然災害の概要（全体像）をつかむ。

日本では様々な災害が発生している。水害では地形や気候が関係しているようだ。

【第2時】  
身近な河川の水害や治水対策の歴史を捉えさせる。

身近な吉野川でも過去に多くの水害が発生しており、洪水遺跡から洪水被害の大きさなどを知ることができる

【第3時】  
公的機関が普段から行っている水害対策や災害時の対応を捉えさせる。

水害による生活や産業への被害を低減するために、様々な人たちが連携・協力している。

【第4時】  
防災の観点からよりよい国民生活の実現を目指す態度を育む。

平常時や災害時の対策をふり返り、自分たち一人ひとりの備えやできることを考え実行しよう。

## 4.評価の規準

### □社会事象への関心・意欲・態度

自然災害から暮らしを守るために行われている取り組みや工夫について、意欲的に調べようとしている。

### □社会的な思考・判断・表現

身近に起こりうる自然災害とその要因について調べ、災害から暮らしを守るために、地域で協力してできることや自分にできることについて、調べたことをもとに考え、表現している。

### □観察・資料活用の技能

日本で起こる自然災害や、その被害を防止するための国や徳島県、石井町の取り組みについて、地図や統計などの資料から適切に読み取り、分かったことをノートやワークシートなどに整理している。

### □社会的事象についての知識・理解

日本で起こる様々な自然災害は国土の自然の特色と関係があることや、災害から暮らしを守るために国や徳島県、石井町などが様々な対策や事業を進めていること、防災だけでなく減災の考え方も大切であることを理解している。

## 5.指導計画（4時間）

	学習活動・内容	指導のポイント
1	〔自然災害の起こりやすい国土〕 我が国で起こる自然災害について調べ、我が国は国土の地形や気候とのかかわりで自然災害がおこりやすいことをつかむ。	我が国で起こった自然災害の発生状況や、発生しやすい理由を、写真や図を活用し学習する。
2	〔洪水と水害の歴史〕 身近な吉野川を題材に水害の歴史や水害対策の歴史を捉える。	吉野川は過去から大きな水害に悩まされていたことを伝える。自分たちの住んでいる近くにある洪水遺跡から過去の洪水被害の大きさを知ることができることや、先人の命や生活を守る知恵を学習する。
3	〔自然災害から暮らしを守るために〕 身近な吉野川を題材に、水害を防止するために普段から国や徳島県、石井町などが様々な対策や事業を進めていることや、水害が発生した時の関係機関の働きや連携について捉えることができる。	水害発生時に働く組織や、日頃から水害の防止のために働いている組織を知り、多くの人の働きによって安全なく暮らしが成りたっていることを学習する。
4	〔自然災害に備えてできることを考えよう〕 これまでの学習をふり返り、自分たちの身の回りにも水害などの自然災害が起こることを認識し、国民一人ひとりが日頃から防災意識を高めることが大切であることに気付く。	自分たちの住む街の避難所がどこにあるかなどを調べながら、水害などの自然災害が発生した時に備えて自分自身にできることを考える。

# 「自然災害の起こりやすい国土」(1 / 4)

1. 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害の防止」(全4時間)の導入の時間として位置づける。																																				
2. 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本には、豊かな自然がある一方で、ひとたび自然災害が発生すると、大きな被害となる。豊かな自然と自然災害は隣り合わせとなっている。</li> <li>自然災害には、地震、津波、水害(洪水、土砂崩れ)、雪害、火山の噴火などがある。</li> <li>それぞれの自然災害には、自然災害が発生する要因として、国土の地形や気候が関係している。</li> <li>その中で石井町に該当するものを考えてみる。</li> </ul>																																				
3. 学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT(大型TV)の活用</li> </ul>																																				
4. 本時のねらい	<p>日本で発生している様々な自然災害について知る。          自然災害の発生と国土の地形や気候との関係を考える。          地形や気候から、石井町に起こりやすい自然災害を考える。</p>																																				
5. 教科書(教育出版「小学社会5下」)における振替ページ(P.40)	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>① 津波によって打ち上げられた船(2011年4月、岩手県大船町)</p> </div> <div style="width: 50%;"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>地震・津波・噴火</th> <th>台風・大雪・大雪</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1991年</td> <td>新潟県の噴火(死者・行方不明者44名、こわれた家1000戸以上)</td> <td>台風19号(9月～10月、死者62名、けが人1499名、こわれたり壊れたりした家19万戸以上)</td> </tr> <tr> <td>1993年</td> <td>北海道釧路沖の津波(7月、死者・行方不明者230名、けが人323名、こわれたり壊れたりした家1000戸以上)</td> <td>大雪(7月～8月、死者・行方不明者79名、けが人154名、こわれたり壊れたりした家2万戸以上) 台風13号(8月～9月、死者・行方不明者48名、けが人266名、こわれたり壊れたりした家1万戸以上)</td> </tr> <tr> <td>1995年</td> <td>阪神・淡路大震災(兵庫県南部地区)(1月、死者・行方不明者6437名、けが人43792名、こわれたり壊れたりした家25万戸以上)</td> <td>大雪・台風(6月～7月、死者・行方不明者40名、けが人64名、こわれたり壊れたりした家1万戸以上)</td> </tr> <tr> <td>1999年</td> <td></td> <td>台風18号(9月、死者・行方不明者36名、けが人1077名、こわれたり壊れたりした家7万戸以上)</td> </tr> <tr> <td>2000年</td> <td>有珠山の噴火(活断層の変動などによる家や道路への崩落、三宅島の噴火(ほとんどの住民が島の外へ避難))</td> <td>大雪・台風(12月～2001年1月、死者・行方不明者45名、けが人1425名)</td> </tr> <tr> <td>2004年</td> <td>新潟県中越地震(10月、死者68名、けが人4805名、こわれた家1万戸以上)</td> <td>台風18号(9月、死者・行方不明者47名、けが人1364名、こわれたり壊れたりした家6万戸以上) 台風23号(10月、死者・行方不明者99名、けが人704名、こわれたり壊れたりした家7万戸以上)</td> </tr> <tr> <td>2005年</td> <td></td> <td>大雪(12月～2006年3月、死者・行方不明者152名、けが人2136名、こわれたり壊れたりした家4000戸以上)</td> </tr> <tr> <td>2008年</td> <td>岩手・宮城内陸地震(9月、死者・行方不明者23名、けが人426名、こわれた家100戸以上)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2011年</td> <td>福島山崩れの噴火(火山口による交通や農業などへの影響) 東日本大震災(東北地方太平洋沖地震、津波)(3月、死者・行方不明者21000名以上、けが人6500名以上、こわれたり壊れたりした家41万戸以上)</td> <td>台風12号(8月～9月、死者・行方不明者98名、けが人1113名、こわれたり壊れたりした家2万戸以上)</td> </tr> <tr> <td>2012年</td> <td></td> <td>大雪(7月、死者・行方不明者32名、けが人27名、こわれたり壊れたりした家1万戸以上)</td> </tr> <tr> <td>2014年</td> <td>新潟山の噴火(死者・行方不明者60名以上、けが人60名以上)</td> <td>大雪(9月、死者70名以上、けが人60名以上、こわれたり壊れたりした家4000戸以上)</td> </tr> </tbody> </table> <p>日本では、さまざまな自然災害が起きています。それぞれの自然災害の発生は、日本の国土の自然の特色とどのような関わりがあるか、考えてみましょう。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>2</b> 自然災害とともに生きる</p> <p>日本の国土で起る自然災害にはどのようなものがあり、それらはなぜ起っているのだろうか。</p> <p>キーワード ●自然災害</p> <p>40</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>自然災害とわたしたちの国土</p> <p>船が建物の上に乗っています。いったい何が起きて、このようになってしまったのでしょうか。</p> <p>2011(平成23)年3月11日、大きな地震のゆれと津波が起こり、東北地方を中心としてさまざまな被害が出ました。この「東日本大震災」のように、大きな地震が起ると、電気やガス、水道や鉄道などが止まり、広い地域で人々の暮らしにいきょうをおよぼします。土砂くずれなどで道路がさげられ、救助のための人や物の移動ができなくなることもあります。</p> <p>台風や大雪による被害も心配です。近年では、地球温暖化のいきょうとみられる集中豪雨が増えており、川のはらんや土砂くずれがたびたび起きています。</p> <p>41</p> </div> </div>	年	地震・津波・噴火	台風・大雪・大雪	1991年	新潟県の噴火(死者・行方不明者44名、こわれた家1000戸以上)	台風19号(9月～10月、死者62名、けが人1499名、こわれたり壊れたりした家19万戸以上)	1993年	北海道釧路沖の津波(7月、死者・行方不明者230名、けが人323名、こわれたり壊れたりした家1000戸以上)	大雪(7月～8月、死者・行方不明者79名、けが人154名、こわれたり壊れたりした家2万戸以上) 台風13号(8月～9月、死者・行方不明者48名、けが人266名、こわれたり壊れたりした家1万戸以上)	1995年	阪神・淡路大震災(兵庫県南部地区)(1月、死者・行方不明者6437名、けが人43792名、こわれたり壊れたりした家25万戸以上)	大雪・台風(6月～7月、死者・行方不明者40名、けが人64名、こわれたり壊れたりした家1万戸以上)	1999年		台風18号(9月、死者・行方不明者36名、けが人1077名、こわれたり壊れたりした家7万戸以上)	2000年	有珠山の噴火(活断層の変動などによる家や道路への崩落、三宅島の噴火(ほとんどの住民が島の外へ避難))	大雪・台風(12月～2001年1月、死者・行方不明者45名、けが人1425名)	2004年	新潟県中越地震(10月、死者68名、けが人4805名、こわれた家1万戸以上)	台風18号(9月、死者・行方不明者47名、けが人1364名、こわれたり壊れたりした家6万戸以上) 台風23号(10月、死者・行方不明者99名、けが人704名、こわれたり壊れたりした家7万戸以上)	2005年		大雪(12月～2006年3月、死者・行方不明者152名、けが人2136名、こわれたり壊れたりした家4000戸以上)	2008年	岩手・宮城内陸地震(9月、死者・行方不明者23名、けが人426名、こわれた家100戸以上)		2011年	福島山崩れの噴火(火山口による交通や農業などへの影響) 東日本大震災(東北地方太平洋沖地震、津波)(3月、死者・行方不明者21000名以上、けが人6500名以上、こわれたり壊れたりした家41万戸以上)	台風12号(8月～9月、死者・行方不明者98名、けが人1113名、こわれたり壊れたりした家2万戸以上)	2012年		大雪(7月、死者・行方不明者32名、けが人27名、こわれたり壊れたりした家1万戸以上)	2014年	新潟山の噴火(死者・行方不明者60名以上、けが人60名以上)	大雪(9月、死者70名以上、けが人60名以上、こわれたり壊れたりした家4000戸以上)
年	地震・津波・噴火	台風・大雪・大雪																																			
1991年	新潟県の噴火(死者・行方不明者44名、こわれた家1000戸以上)	台風19号(9月～10月、死者62名、けが人1499名、こわれたり壊れたりした家19万戸以上)																																			
1993年	北海道釧路沖の津波(7月、死者・行方不明者230名、けが人323名、こわれたり壊れたりした家1000戸以上)	大雪(7月～8月、死者・行方不明者79名、けが人154名、こわれたり壊れたりした家2万戸以上) 台風13号(8月～9月、死者・行方不明者48名、けが人266名、こわれたり壊れたりした家1万戸以上)																																			
1995年	阪神・淡路大震災(兵庫県南部地区)(1月、死者・行方不明者6437名、けが人43792名、こわれたり壊れたりした家25万戸以上)	大雪・台風(6月～7月、死者・行方不明者40名、けが人64名、こわれたり壊れたりした家1万戸以上)																																			
1999年		台風18号(9月、死者・行方不明者36名、けが人1077名、こわれたり壊れたりした家7万戸以上)																																			
2000年	有珠山の噴火(活断層の変動などによる家や道路への崩落、三宅島の噴火(ほとんどの住民が島の外へ避難))	大雪・台風(12月～2001年1月、死者・行方不明者45名、けが人1425名)																																			
2004年	新潟県中越地震(10月、死者68名、けが人4805名、こわれた家1万戸以上)	台風18号(9月、死者・行方不明者47名、けが人1364名、こわれたり壊れたりした家6万戸以上) 台風23号(10月、死者・行方不明者99名、けが人704名、こわれたり壊れたりした家7万戸以上)																																			
2005年		大雪(12月～2006年3月、死者・行方不明者152名、けが人2136名、こわれたり壊れたりした家4000戸以上)																																			
2008年	岩手・宮城内陸地震(9月、死者・行方不明者23名、けが人426名、こわれた家100戸以上)																																				
2011年	福島山崩れの噴火(火山口による交通や農業などへの影響) 東日本大震災(東北地方太平洋沖地震、津波)(3月、死者・行方不明者21000名以上、けが人6500名以上、こわれたり壊れたりした家41万戸以上)	台風12号(8月～9月、死者・行方不明者98名、けが人1113名、こわれたり壊れたりした家2万戸以上)																																			
2012年		大雪(7月、死者・行方不明者32名、けが人27名、こわれたり壊れたりした家1万戸以上)																																			
2014年	新潟山の噴火(死者・行方不明者60名以上、けが人60名以上)	大雪(9月、死者70名以上、けが人60名以上、こわれたり壊れたりした家4000戸以上)																																			

6. 学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書参照）
<p>導入 (10分)</p>	<p>①吉野川で発生した洪水の写真を見せる。 ②どのような災害か子供たちに問いかける。 ●予想される回答 洪水だと思います →石井町で撮影した写真であり，身近にこのような災害が起こる可能性があることを説明する。</p>	<p>・写真を活用し，災害の恐ろしさを気付かせる。</p>	<p>○解説書 P1～P2 「さまざまな自然災害」</p>
<p>日本では，どんな自然災害が起こっているのか調べよう</p>			
<p>展開 (30分)</p>	<p>③我が国で起こる洪水以外の自然災害について考えて発表する。 ④自然災害の発生と国土の地形や気候との関わりについて考える。 【地形】 ・火山 火山が多い ・地震 震源地が多い ・津波 震源地が多く海に面している ・水害 土地が低い，川がある 【気候】 ・水害 大雨（梅雨）や台風 雨が多い方の地域 ⑤吉野川水系流域図や年平均降雨分布図等を配布し，吉野川の周りでの自然災害を考える。</p>	<p>・災害の種類ごとにグループ分けしていく。  ・吉野川に該当する地形・気候条件を考え，水害が起こりやすいことに気付かせる。</p>	<p>○解説書 P1～P2 「さまざまな自然災害」 ○教科書下 P. 40～P. 47 「自然災害とわたしたちの国土」 ○解説書 P4～P12 「我が国で水害の発生が多い理由」  ○解説書 P13～P15 「吉野川の概要」 ○解説書 P16～P17 「吉野川で起きた過去の水害」</p>

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書参照）
展開 (30分)	<p>⑥水害が起こった時，私たちの生活や産業にどのような影響があるか考えて発表する。</p> <p>⑦洪水から私たちの命や地域を守る，被害を小さくするために堤防等の施設があることを学習する。</p>	<p>・水害が私たちの生活や産業に大きな影響を与えることを気付かせる。</p>	<p>○解説書 P3 「水害とは・・・」</p>
まとめ (5分)	<p>⑧ふり返りをノートにまとめさせる。</p> <p>⑨まとめを伝える。</p>		
<p>まとめ：日本は自然災害が起こりやすい地形や気候となっている。 吉野川の周りも水害が起こりやすい。 水害が起こると私たちの生活や産業は大きな被害を受ける。 洪水が溢れることを防ぐために堤防などの施設がある。</p>			



# 「洪水と水害の歴史」(2/4)

1. 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害の防止」(全4時間)の展開の時間として位置づける。
2. 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間目で、地形と気候が自然災害に深く関わっていること、吉野川の周りでは水害が起こりやすいことが分かった。</li> <li>・石井町でも身近に水害が起こる可能性があることも分かった。</li> <li>・水害が起こると私たちの生活や産業は大きな被害を受けるので、洪水が溢れることを防ぐために堤防などの施設がある。</li> <li>・吉野川の周りでは過去から大きな水害が起きていた。</li> <li>・昔の人が水害から命や暮らしを守るために行った工夫や知恵を伝える。</li> <li>・洪水が多く発生していたため、稲作よりも藍作が盛んだったことも紹介する。</li> </ul>
3. 学習方法の工夫	・ICT(大型TV)の活用
4. 本時のねらい	<p>吉野川は過去から大きな水害に悩まされていたことを伝える。</p> <p>自分たちの住んでいる近くにある洪水遺跡から過去の洪水被害の大きさを知ることができることや、先人の命や生活を守る知恵を学習する。</p>
5. 教科書(教育出版「小学社会5下」)における振替ページ(P.42)	<p>教科書(教育出版「小学社会5下」)における振替ページ(P.42)</p>



6. 学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
<p>導入 (10分)</p>	<p>①前回の授業のふり返しを行う。</p> <p>②吉野川（第十堰から下流）の今と昔の写真・絵図を見せる。</p> <p>③昔は今のようない堤防が無かったことを伝える。</p> <p>④堤防が無いとどんな影響があるか子どもたちに問いかける。</p> <p>●予想される回答 洪水が度々起きて農作物が浸水する。 →洪水によって運ばれてきた土が藍作に適していたこと、洪水が多く発生する時期の前に藍は収穫できるため、稲作より藍作が適していたので全国一の藍の産地だったことを伝える。</p>	<p>・吉野川は過去から大きな水害に悩まされていたことを伝える。</p>	<p>○解説書 P18～P19 「洪水と水害の歴史」</p>
<p><b>吉野川にはどんな洪水や水害の歴史があるのだろう</b></p>			
<p>展開 (30分)</p>	<p>⑤徳島市国府町にある蔵珠院の茶室に残された洪水の跡や、過去の洪水で浸水した深さを示した標柱の写真を見せ、高い位置まで水に浸かったことを伝える。</p> <p>⑥田中家や搔寄堤の写真を見せ、水害から命や暮らしを守る工夫を伝える。</p>	<p>・石井町の洪水と水害の歴史を伝える。</p> <p>・昔の人が水害から命や暮らしを守ってきた知恵を伝える。</p>	<p>○解説書 P18～P19 「洪水と水害の歴史」</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>⑦ふり返しをノートにまとめさせる。</p> <p>⑧まとめを伝える。</p>		
<p><b>まとめ：吉野川では過去に度々洪水が起きていた。</b> 徳島県では台風が来る前に収穫できる藍の栽培が盛んだった。 昔の洪水の跡や水害から暮らしを守るつくりの家などが残されている。 それらから昔の洪水被害の大きさや昔の人たちの知恵を知ることができる。</p>			

# 「自然災害から暮らしを守るために」(3/4)

1. 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害の防止」(全4時間)の展開の時間として位置づける。
2. 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2時間目では、吉野川で水害を防ぐために昔から様々な対策が行われていることが分かった。</li> <li>・水害を防ぐために、堤防やダムなどの施設がある。その施設が果たす役割(効果)について学習する。</li> <li>・水害の被害を小さくするために普段から行っている備え、水害の発生時に働く人々について学習する。</li> <li>・災害時に様々な人が協力して、地域住民の安全を守っていることを知る。</li> </ul>
3. 学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT(大型TV)の活用</li> <li>・グループ単位での学習</li> </ul>
4. 本時のねらい	<p>堤防やダムがあることで、洪水時にどのような効果があるか知る。 堤防の設置や維持など、水害防止に公的機関が関わっていることを知る。 水害の被害を最小限にするための仕事の内容について知る。</p>
5. 教科書(教育出版「小学社会5下」)における振替ページ(P.44~P.47)	 <p>教科書ページ44-47のスクリーンショット。内容は、自然災害から暮らしを守るための取り組み、自然災害に強いまちづくり、津波を繰り返す、協力して自然災害を格く、津波を繰り返す、自然災害から暮らしを守るために、協力して自然災害を格く、津波を繰り返す、自然災害から暮らしを守るために、協力して自然災害を格く。</p>

6. 学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
導入 （10分）	①前回の授業のふり返りを行う。 ②水害の防止のために国や徳島県や石井町がどのような対策を行っているか子どもたちに問いかける。 ●予想される回答 堤防，ダム →堤防やダムなどの施設以外にも水害を防ぐために様々な対策を行っていることを学習する。	・堤防以外にも水害に備えて国などが普段から行っている対策があることを気付かせる。	○解説書 P20～P21 「国などで行われている治水対策」
<b>自然災害の一つである水害の防止のためにどのような対策が行われているのだろう</b>			
展開 （30分）	③堤防やダムにどのような効果があるか子どもたちに問いかける。 ●予想される回答 堤防：洪水を川に閉じ込める。 ダム：川の水の量を調節している。 →ダム・堤防の効果を，過去の洪水を例にイラストなどを使って学習する。  ④洪水による被害を小さくするために，国や徳島県，石井町で普段から行っていることを写真を使って学習する。  ⑤水害による被害を小さくするために，どんな人々が働いているか調べる。 ・イラストの中に職業ではなく働く人々がいることを気付かせる。	・堤防やダムがあることで，洪水時にどのような効果があるか気付かせる。  ・堤防の設置，維持についての学習で，水害防止に公的機関が関わっていることを捉えさせる。  ・災害時に様々な人が協力して被害を最小限に抑えるために働いていることを気付かせる。	○解説書 P22 「堤防やダムの効果」  ○解説書 P23 「水害に備えて普段から働く人々」  ○解説書 P24～P25 「水害が発生した際に働く人々」

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
まとめ (5分)	⑥ふり返りをノートにまとめさせる。  ⑦まとめを伝える。	・授業をふり返り、 多くの人たちの働 きで自分たちの安 全な生活が保たれ ていることに気付 かせる。	
まとめ：国や徳島県や石井町で洪水に備えて普段から様々な対策を行っている。 災害が起こった時には、様々な人が協力して、地域住民の安全を守っている。			

# 「自然災害に備えてできることを考えよう」(4/4)

1. 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害の防止」(全4時間)のまとめの時間として位置づける。
2. 指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然災害の防止」のまとめとして、これまでの学習のふり返りや、日ごろから防災に関して関心を持つことの大切さについて考える。</li> <li>・1時間目では、自然災害の一つ、水害が起こると私たちの生活や産業に大きな影響が出ることが分かった。</li> <li>・3時間目では、様々な人々が洪水の被害を小さくするために活動することが分かった。</li> <li>・石井町では、過去、水害が発生し、今後も起こらないとも限らない。</li> <li>・もしもの時に備えて、自分たちでできることは、避難所の場所や連絡先を知ること、安全な避難の方法を知ること、防災に関する情報を知ること、必要な持ち物を用意しておくこと等がある。</li> <li>・自分たちの住む場所の避難場所等を確認する活動や、自分たちにできることを話し合うことで、自助の意識を高める。</li> <li>・水害以外の自然災害についても同様のことが言え、自分たちでできることを考えることが重要である。</li> </ul>
3. 学習方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT(大型TV)の活用</li> <li>・グループ単位での学習</li> </ul>
4. 本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水害時に自分たちができることを考え、万が一に備えて避難所や必要な準備を調べることができる。</li> <li>・水害に限らず、自然災害に備えることが大切であることに気付くことができる。</li> </ul>
5. 教科書(教育出版「小学社会5下」)における振替ページ(P.47)	

## 6. 学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
導入 (10分)	<p>①これまでの授業をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本は地形条件と気候条件により自然災害が起こっている。</li> <li>・自然災害が起こると、生活や産業に大きな影響を与える。</li> <li>・過去の洪水の跡や水害から暮らしを守る対策などを見ることで、過去の水害の大きさを知ることができる。</li> <li>・自然災害を防止するために、国や徳島県、石井町などが様々な対策を行っている。</li> <li>・自然災害の被害を小さくするために様々な人々が活動し、私たちの安全を守っている。</li> </ul>	<p>簡潔に1～3時間をふり返る。 (1～3時間のそれぞれの時間のまとめを発表させる。)</p>	<p>○解説書 P1～P2 「さまざまな自然災害」</p>
<p><b>自然災害に備えて自分たちができることは何だろう</b></p>			
展開 (30分)	<p>②チェックシートを配布し、普段から災害に備えてできていることを確認する。</p> <p>③班にさせ、洪水ハザードマップを使って、避難場所を調べさせる。</p> <p>④地震など水害以外の災害の場合は避難所が違う場合があるので、災害の種類にあわせて安全な場所へ避難するように伝える。</p> <p>⑤解説書 P26 の「水害に対する心がけ・緊急時の心がけ」を配り、災害に備えて、普段から家庭でできることの大切さを伝える。</p>		<p>○プリント「水害への備えチェックリスト」（解説書 P31）</p> <p>○ハザードマップ（解説書 P26「水害に対する心がけ」）</p> <p>○プリント「水害に対する心がけ・緊急時の心がけ」（解説書 P30）</p>

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
展開 (30分)	<p>⑥水害が発生した際に自分たちができることを班で話し合い発表する。</p> <p>●<u>予想される回答</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川の水位に注意する。</li> <li>・テレビやラジオで天気や防災情報を確認する。</li> <li>・お年寄りや子どもを優先し、落ち着いて行動する。</li> <li>・避難の呼びかけ、避難指示に速やかに従う。</li> </ul> <p>⑦水害以外の災害への備えとの共通点を考え、自然災害には備えが必要であることに気付かせる。</p>		<p>○プリント「水害に対する心がけ・緊急時の心がけ」（解説書 P30）</p>
まとめ (5分)	<p>⑧ふり返りをノートにまとめさせる。</p> <p>⑨まとめを伝える。</p>		
<p>まとめ：水害に限らず自然災害に備えて、普段から自分にできる備えを行うことが大切である。</p>			



こくどこうつうしょう しこくちほつせいひきょく  
国土交通省 四国地方整備局  
とくしまかせんこくどうじむしょ  
徳島河川国道事務所  
かせんちょうさか  
河川調査課

〒770-8554 徳島県徳島市上吉野町3丁目35

TEL. 088-654-2211 (代)

<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/index.html>